

ホタル

－ 身近な生き物へのやさしい心 －

- 1 学年 第2学年〔前期〕
 2 主題名 生き物を大切に〔3－(2)〕
 3 ねらい 友達の言動から、捕まえたホタルを自然に返すことにしたひろしの気持ちを考えることを通して、身近な生き物を大切に、優しい心で接しようとする心情を育てる。
 4 資料名 「ホタル」
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 蒲刈の自然の生き物の写真を見る。 ○ 蒲刈の自然の中にはどんな生き物がありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 草むらにバッタがいる。 ・ 海に魚がいっぱいいる。 ・ 宮盛にホタルがいる。 	○ 事前に児童からアンケートをとっておき、生き物の写真を見せ、学習意欲を高める。
展 開	2 資料「ホタル」を聞いて話し合う。 ○ ホタルでいっぱいになった虫かごを見ているひろしはどんな気持ちだったのでしょうか。 ○ けん一の話聞いた後、虫かごをじっと見ているひろしはどんなことを考えていたのでしょうか。 ◎ ひろしはどんな気持ちで、飛んで行くホタルを見つめていたのでしょうか。 3 自分の経験を振り返る。 ○ ひろしのように、生き物に優しくしたことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ きれいだな。 ・ このホタルを持って帰りたい。 ・ お母さんに見せたい。 ・ 逃がすなんてもったいない。 ・ ホタルの命は、短いんだ。 ・ お母さんに見せたいけれど、逃がした方がいいのかな。 ・ かわいそうだから、逃がしてあげよう。 ・ 短い命だけど、精一杯生きてね。 ・ お母さんに見せられないのは残念だけど、自然にかえそう。 ・ 広い空を飛ぶ方が、ホタルもきっと喜んでいるよ。 ・ ありの行列を踏まないようにした。 ・ トンボを捕まえたけれど逃がしてあげた。 ・ けがをしていたスズメの手当をして、飛べるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホタルをたくさん捕って喜んでいるひろしの気持ちに共感させる。 ○ ホタルの命の短さについて、補足説明をすることにより、ホタルのためにはどうするのがよいかを考える手がかりにさせる。 ○ 葛藤するひろしの気持ちをしっかり出させることにより、中心発問につなげる。 ○ 中心発問について自分の考えをワークシートに書くことにより、けん一の言動から変化していくひろしの気持ちをしっかり考えさせる。 ○ 自然や生き物に優しく接するということは、自然のままにしておくことに気付かせる。 ○ 自分の経験を振り返ることで、価値の自覚を深める。 ○ 飼育や栽培をしている動植物について意見が出た場合も、やさしい心で世話をしていることを認めるようにする。
終 末	4 映像により身近な生き物について考える。		○ 身近な生き物の感動的な映像を見せることにより、価値を温め、道徳的实践につなげていくようにする。

6 授業の概要

(1) 主題について

本主題は、低学年の内容項目〔3－(2)〕「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。」をもとに設定した。近年の科学技術の進歩による物の豊かさ、便利さは、自然とのふれあいの機会を減らし、人間が本来もっていた感性や資質を弱くしてしまった。人間の感性や資質を豊かにするためにも、地球環境をこれ以上悪化させないためにも、自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度は、現在、特に身に付けなければならないものである。

この時期の児童は、生き物が大好きである。身近な自然の中で遊んだり、ペットの世話をしたりする中で、動植物に興味をもつようになる。2年生になると、学校での動植物の飼育栽培についての理解も深まり、草花や昆虫などを学習で扱うことも多くなる。しかし、動植物をかわいがる気持ちが強くなる一方で、自分本位に動植物に接したり、自分の都合で世話をしなかったりする場合もある。

そこで、自然や動植物がもつ不思議さやいとおしさ、生命の力などを感じ取らせることによって、真に生き物を大切にすることとは何かについて考えさせ、自然や動植物を大事に守り育てようとする心情を育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用する時期

生活科の学習や遠足、校外学習で山や野原に出かけて、自然や動植物に触れる機会のある学習の前後、夏休みに入る前の時期等に扱うとよい。

イ 関連させるとよい各教科等

生活科の「レッツゴー！町たんけん」「もっとしりたいな町のこと」や遠足で、自分達が住む町を探検する際、自然や生き物と触れ合うことにより、自然の素晴らしさをより身近に感じさせることができる。

また、生活科「ぐんぐんのびろ」「げんきにそだて」で、動植物が育つ様子を観察したり、世話をしたりすることを通して、動植物には生命があり、成長していることに気付かせるとともに、自然の素晴らしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすることを育てる。

図工科「ざいりょうのへんしん」で、身の回りの自然の中で見つけた材料を組み合わせたか、色を付けたりして作品をつくることを通して、自然のよさを身近に感じ、それらを大切に守っていこうとする心情を育てる。

花係や生き物係などの学級の係活動や一人一鉢運動などの栽培活動、ウサギの世話などの飼育活動を通して、自然や動植物を大切にすることを育て、動植物の立場に立って、世話をしようとする実践意欲や態度を育てる。

ウ 中心発問

中心発問は、けん一の言動からひろしが気づき、生き物に対する接し方を変えようとする決断した場面での気持ちを問うものである。その前段で、ひろしがホタルを捕まえた時の喜びや家を持って帰って帰って見せたいと思う気持ちをしっかりとらえさせたい。そのことにより、ひろしの心の変化、決断に至る思いについて、多様な考えが出てくると考える。

そして、ひろしの気持ちに共感させることにより、身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接することの大切さに気付かせたい。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

生き物の飼育や採集経験を想起することにより、学習意欲を高め、ねらいとする価値への方向付けをする。

イ 資料提示の工夫

紙芝居を使って資料提示をすることにより、イメージ豊かに内容をとらえさせるようにするのもよい。資料の世界に児童を引き込むことにより、感情移入ができ、登場人物への共感を深めることができる。資料提示後は、紙芝居を場面絵として、短冊とともに黒板に貼る等、児童がより深く考えられるような工夫を行うとよい。

ウ 振り返りの工夫

展開後段では、今後、自分はどうのように動植物と接していくのかについて考えさせ、実践へつなげるための発問をする。そのためには、これまでの自分の動植物との接し方を振り返らせ、それぞれの課題を考えさせたい。

エ 終末の工夫

地域の身近な感動的な生き物の映像を見せることにより、たくましく生きている小さな命のいとおしさを感じ取らせ、学習した道徳的価値を温め、実践意欲につなげたい。